

# HPV検査で 子宮頸がんのリスクを知る

---

メスプ細胞検査研究所

# ヒトパピローマウイルス(HPV)検査を受けましょう

子宮頸がんは、主に性交渉により HPV が感染することで発症します。

近年、**1000人に1~2人**の割合で子宮頸がんになる人がいます。

HPV 感染者の子宮頸がん発症リスクは HPV 非感染者の **400倍以上** と言われています.\*

子宮頸がんと  
ヒトパピローマウイルス  
(HPV)

\* 喫煙者の肺がん発症リスクは非喫煙者の4倍

HPV 感染から 5~10 年以上かけて、一部ががんへと移行します。



HPV感染者のリスクは  
非感染者の  
**400倍以上！**

## 細胞診

子宮頸部から採取した  
細胞の「形」を  
顕微鏡で調べます。

がんの発見率は高いですが、  
前がん病変の発見は  
**約30%の見逃し**があると言われています。



## HPV検査

HPV検査は、  
**ウイルス感染の有無**を  
判定します。

採取した細胞中の HPV の  
存在を直接調べるため  
非常に精度が高い検査です。



**すべての年代の方へ**  
『子宮頸がん』をもっと知っていただくために



子宮頸がんになつても  
**自覚症状はほとんどありません**

腰痛腹痛がある4%  
出血がある21%  
分からぬ29%  
自覚症状はない46%

HPV検査を受け早期発見できたことで子宮を摘出する人が**半減**しました

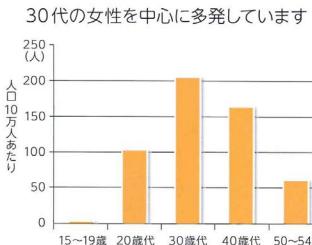
子宮摘出が必要な症例  
細胞診 細胞診 + HPV検査

細胞診、HPV検査両方陰性の場合  
子宮頸がんになるリスクは**きわめて低く**なります

著者謝存ほか  
人間ドック21(3):  
704-707, 2006より作図

**20~30代の方へ**

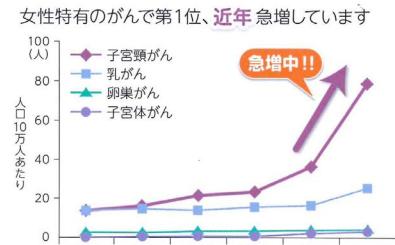
30代の女性を中心に多発しています



年齢層	人口10万人あたり
15~19歳	~10
20歳代	100
30歳代	200
40歳代	150
50~54歳	50

国立がんセンターがん対策情報センター「地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(1975年~2010年)」より作図

女性特有のがんで第1位、**近年**急増しています



年	子宮頸がん (人口10万人あたり)	乳がん (人口10万人あたり)	卵巣がん (人口10万人あたり)	子宮体がん (人口10万人あたり)
1985	~10	~10	~5	~5
1990	~15	~15	~5	~5
1995	~20	~15	~5	~5
2000	~25	~15	~5	~5
2005	~40	~20	~5	~5
2010	~70	~30	~5	~5

急増中!!

**早期発見できれば子宮を残して完治し、妊娠出産も望めます**

**40代の方へ**

40代の女性の死亡率は**2倍**に増えています

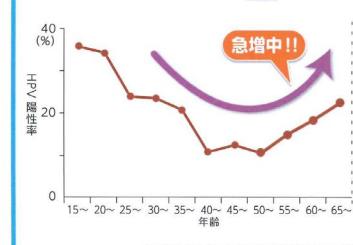


年	50歳代	40歳代	30歳代
1991年	9.0	5.8	~1
2001年	11.4	7.4	~1
2011年	11.4	10.1	~1

国立がんセンターがん対策情報センター「人口動態統計によるがん死亡データ(1958年~2012年)」より作図

**50代以降の方へ**

50代以降でHPV陽性者が**増加**しています



年齢	HPV陽性率 (%)
15~20~	~35
25~30~	~30
35~40~	~20
40~45~	~10
45~50~	~10
50~55~	~15
55~60~	~18
60~65~	~22

急増中!!

Onuki M et al. Cancer Sci. 2009;100(7):1312-1316

**HPV検査により  
子宮を摘出する人が  
**半減！****

# HPV検査は自己採取と医師採取で高い一致率

## ホームスミアセットプラスにおけるHPV検査の有用性 ～自己採取と医師採取の比較試験～

医師採取で行った、子宮頸がん検診被験者 254 名を対象に、ホームスミアセットプラスを使用してもらい、両者のHPV検査の比較試験を行いました。

		医師採取HPV			
		陽性	陰性	不敵	TOTAL
自己採取 HPV	陽性	33	6	0	39
	陰性	3	212	0	215
	不適	0	0	0	0
	TOTAL	36	218	0	254

▼

自己採取 HPV 検査陽性率	39 / 254	15.4%
医師採取 HPV 検査陽性率	36 / 254	14.2%

自己採取 HPV 検査と医師採取 HPV 検査の一致率は  
96.5%で、ほぼ同等な成績と考えられる。

自己採取と医師採取の  
一致率

96.5% !

自己採取HPV検査は未受診者層を受診に取り込む  
きっかけになり得ると考えられる。

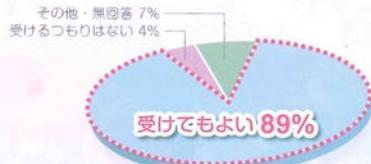
## 自己採取HPV検査を導入するメリット

自己採取HPV検査が陽性の場合、子宮頸がん検診を受ける動機ができるため

今まで受診しなかった女性が受診することが見込まれます。

ある企業に勤める女性(20-50代)のアンケートでは、**95%の女性が**自己採取HPV検査で陽性だった場合、医療機関を受診する動機になると回答しています。

Q1・自己採取HPV検査の検診について  
どう思いますか？



Q2・自己採取HPV検査で陽性になった場合、  
医療機関を受診する動機になりますか？



HPV検査が陽性の時  
医療機関受診する

**95% !**

未受診者はこんな人！

毎年健診は受けていても、  
子宮頸がん検診は  
受けたことが無い。



自己採取HPV検査

HPV検査陰性



HPV検査陽性

提供

第73回日本公衆衛生学会（2014年）  
伊藤真理（東京大学大学院医学系研究科疫学・予防保健分野）、  
小西宏（日本対がん協会）ら共同発表データより

子宮頸がん検診の  
受診率が向上！

子宮頸がん検診を  
受けに行く！

